膵腫大を伴ったミクリッツ病の一例

後藤　雄輔[1)]　三宅　勝久[1)]　安野　哲彦[1)]
中島　　衡[1)]　瀬戸　美夏[2)]　喜久田利弘[2)]
斉藤　喬雄[1)]

[1)] 福岡大学医学部腎臓・膠原病内科
[2)] 福岡大学医学部歯科口腔外科

要旨：症例は79歳女性．両側顎下腺，耳下腺の腫大，口腔内乾燥症状があり，当院受診．シェーグレン症候群が疑われたが，血液検査で抗 SS-A 抗体，抗 SS-B 抗体ともに陰性であった．腹部 CT では膵腫大が見られた．血清 IgG4 が高値であり，顎下腺と口唇生検で IgG4 陽性形質細胞浸潤を認めたことからミクリッツ病と診断した．プレドニゾロンの投与により顎下腺，耳下腺および膵腫大は急速に縮小した．近年，自己免疫性膵炎，後腹膜線維症，硬化性胆管炎，硬化性唾液腺炎，特発性膜性腎症などの疾患は IgG4 関連疾患と考えられている．唾液腺の腫大がある場合はミクリッツ病も鑑別診断に挙げ，自己免疫性膵炎の合併などの全身評価が必要である．

キーワード：ミクリッツ病，**IgG4** 関連疾患，**IgG4**，頚部腫瘤